

1 農業分野

農業分野を取り巻く現状と課題

(1) 都市と共生し続けられる農業・農地のあり方が求められている。

- ① 農地の減少が進行するとともに、農家数も減少している。
- ② 国による都市農業振興や東京都の農業政策の流れに応じた施策展開が必要
- ③ 市民の農業・農地に対する認知度を高めるために、多面的な機能が発揮できるよう、積極的な農地の利活用が必要
- ④ 農業・農地を西東京市のブランドとして捉えたプロモーションが必要

(2) 農業が『業』として確立され、次世代へと継承されるための支援策が求められている。

- ① めぐみちゃんメニューなどの取組みにより成果が出ているが、商工業事業者及び消費者の認知度は低い
- ② 消費者の多様化する購買行動に合わせた直売所等の充実が必要
- ③ 少量多品目生産の特徴に合わせた、多様な販売チャンネルの拡大が必要
- ④ 他業種や様々な主体との連携・協力による農産物のブランド化が必要
- ⑤ 新規就農、後継者確保に向けた支援、農業生産技術の継承の検討が必要

(3) 農業・農地が都市と共生していくためには、市民による理解と交流が求められる。

- ① 農業体験や農業者との交流機会に対する市民ニーズの高まり
- ② 農業・農地に対する市民理解を促進していくことが必要
- ③ 市民理解を促進するためには、体験イベントの充実による情報提供が効果的
- ④ 市民農園、農業体験農園のあり方、支援策についての検討が必要

西東京市の農業分野を考えるためのキーワード

- 農業・農地の多面的機能の発揮
- 農地を活かした交流の促進
- 地産地消の推進と販路の拡大
- イベント等による市民理解の促進
- 多様な主体との連携・協力
- 消費者ニーズの的確な把握
- 戦略的なプロモーション

方向性1
で対応

方向性4
(横断的視点)
で対応

後期計画における方向性

方向性1 持続可能な「農」が共生するまちをつくる

農業・農地の持つ多面的な機能や、まちの貴重な資源としての価値を市民に認識してもらうとともに、農業が『業』として維持・発展していくための多角的な支援策を講じ、西東京市らしい都市と「農」が共生し続けられるまちを目指す。

施策1：農地の多面的機能の発揮

農業者との連携・協力のもと、農地の持つ多面的機能を活かした事業を展開し、農業者との交流をとおして市民理解の促進を図ります。

- 農業交流拠点の利活用の推進
- 災害時協力農地の拡大
- 農業交流事業の展開

など

施策2：販売力向上を目指した農業経営の推進

農業のイメージアップや販路拡大などに取り組み、農業が『業』として確立し、次世代へ継承していくための支援を行います。

- 農業普及啓発プロジェクトの活用
- 直売所の利用の促進
- 緑のアカデミー事業の実施
- 農業体験農園の推進

など

効果を測定するための指標

- 市民の農業・農地に対する理解促進：農業に関する満足度（市民意識調査）
- 市内生産量の拡大：農産業産出額・作付延べ面積（東京都農作物生産状況調査）
- 市内農産物の販路の拡大：農業者・商工業者ヒアリング（新規）

方向性4 (横断的視点) 魅力ある「西東京市ブランド」が輝くまちをつくる

- 施策1：西東京市ブランドの情報発信・PR
- 施策2：イベント開催によるにぎわいづくり
- 施策3：新たな連携の創出
- 施策4：観光まちづくりの推進